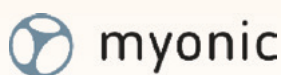


特集2 >> ステークホルダーにとって魅力的な企業を目指す ～ドイツ・マイオニックでの取り組み～

世界14カ国に製造拠点を展開するミネベアグループでは、グローバルでのCSR強化を進めています。その一つである、ドイツ・マイオニックにおける経営と一体化したCSRの取り組みを紹介します。



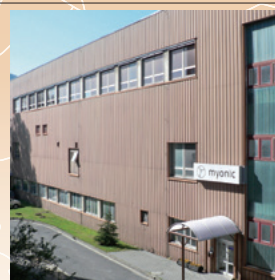
myonic GmbH



ドイツ

チェコ

myonic s.r.o.



高い品質で信頼されるマイオニックの製品

ドイツ・myonic GmbH(以下、マイオニック)がミネベアグループの一員となったのは2009年のことです。ドイツ南部のアルプス山脈の程近く、アルゴイ地方ロイトキルヒ市に本社を置くマイオニックは、1936年創業の歴史あるベアリングメーカーであり、現在415名の従業員が働いています。同社がドイツとチェコに持つ工場は、ミネベア製品の開発・製造拠点として、グループでも重要な役割を担っています。

マイオニックが特に強みを持つのは、その売上の約60%を占める歯科・医療機器向けの極小ボールベアリングです。人々の健康・生命を支える歯科や医療の現場で、使用機器に高い信頼性が求められるのはいうまでもありません。ミスの許されない場面で使われる手術・検査用機器や、デンタルハンドピースなどの領域でマイオニックの製品は世界的に高い評価を得ています。

また、その耐環境性の高さを生かし、マイオニックの製品は航空機のナビゲーションシステムや自動車のターボチャージャーなどでも活躍しています。高速回転・高温・高圧といった過酷な環境下でも安定した性能を維持し、最終製品の品質を支えます。

2012年、マイオニックは最新設備を備えた新工場をロイトキルヒ市内に設立しました。より多様なニーズに応えられる体制を整え、当社グループの欠かせない拠点として存在感を強めています。

ステークホルダーとともに成長を目指す

このようにマイオニックが培ってきた80年近い歴史は、従業員をはじめとするステークホルダーとともに積み重ねてきたものです。特に、社会貢献活動や環境問題への対応など、さまざまな人と手を取り合ったCSR活動は、マイオニックの発展において大きな役割を果たしてきました。

そのことへの認識を強めつつ、時代とともに変化する社会からの要請に応えるため、2011年1月、マイオニックは新たなビジョンを策定しました。企業成長にフォーカスしていた従来の視点を超えて、お客様や従業員とともに発展していくことの重要性を盛り込みました。

この新ビジョンに合わせ、従業員にとって魅力的な企業づくりを目指した推進プロジェクトも発足しました。人口約2万人の小さな街であるロイトキルヒ市で事業継続の上で課題となってきたのが、高い能力を有する従

従業員の署名が入ったビジョン



ビジョンマイオニック

マイオニックは、持続可能な発展と収益性に対する責任を担う心構えを持った従業員を擁する、優れた雇用主です。マイオニックは、品質、スピード、柔軟性を常に確保し、革新的かつ経済的なソリューションを提供することで、お客様から第一に選ばれる企業を目指しています。

従業員をいかに確保するかということでした。そのため、このプロジェクトでは地元の方々から「働きたい職場」として認知されることを目標に、地域の一員でもある従業員の満足度を高めるとともに、地域貢献活動にも力を入れることで地域から支持される企業を目指しました。

さまざまな取り組みを積極的に行うだけでなく、活動の成果を計る仕組みとして、世界49カ国で「働きがいのある会社」の評価を行う「Great Place to Work® Institute」の調査を2年に一度受けています。この調査からのフィードバックを生かし改善に取り組んだ結果、2014

年9月にはアルゴイ地方の「働きがいのある会社」の1社（第3位）として表彰されたほか、85%の従業員から「会社に満足している」との回答を得ることができました。

また、ビジョン浸透のためには、経営陣だけでなく、従業員自身の主体的な取り組みが不可欠です。プロジェクトに従業員の積極的な参加を促したことにより、最終的に全従業員がビジョンに対して理解を深めることができました。その象徴として、全員の署名が入ったビジョンが工場入口に掲げられ、マイオニックの組織文化として溶け込んでいます。



ステークホルダーの声に丁寧に答え、魅力的な企業となることを目指しています



マイオニック
管理・財務部門
マネージャー
トーマス・アーノルド

新たに策定したビジョンは全社に確実に浸透し、さまざまな議論をする際にも一つのよりどころとなっています。「Great Place to Work® Institute」の調査でも、回を重ねるごとに「働きがいのある会社」として評価が上がり、現在ではドイツ全体（対象企業全600社）でも130位にまで達しています。順位を上げることが私たちの目的ではありませんが、調査を基にした現状分析により、一步一步取り組みが進展してきたことには達成感を覚えます。

また、従業員や地域、お取引先様などステークホルダーとの直接的な対話も大切にしています。長年勤める従業員からは、意見交換の度に会社への誇りの声を聞くことができ、こうしたステークホルダーのマイオニックへの想いを発展させることこそが私たちのCSRの核心ではないかと感じています。

研修生とマイオニックのインストラクター



地域から表彰



研修生が通う学校の様子



従業員にとって魅力的な職場を目指す

新たなビジョンの下、魅力ある職場環境を目指した取り組みは、多面的に広がります。

従業員が元気で生き生きと働けるよう「安全と健康」に向けた施策では、労働組合と協力して安全衛生を推進するほか、健康的な食生活や肥満対策へのアドバイスも行っています。さらに、新たな企業風土を根付かせるためには従業員への「感謝」の気持ちを表すことも必須であると考え、勤続年数の長い従業員を表彰したり、従業員の家族へプレゼントを贈ったりしています。

また、特にマイオニックが注力するのが、「育成」の取り組みです。ドイツの教育制度では、中学校卒業後の進路の一つとして、学校に通いながら企業で実務研修を受ける仕組みがあります。マイオニックもこの制度に積極的に協力し学生を受け入れることで、地域全体のキャリア支援を行いつつ、将来自社で働くことに関心のある学生を増やせるよう努めています。

3年から3年半にわたり、マイオニックの研修生は

CAD*の使い方などの基本的な知識・スキルを学ぶほか、製造機械の整備、実際の仕様書にのっとった部品製造など、多くの実技研修を受けます。研修期間中はいつでもマイオニックの従業員に相談できるようバックアップ体制を整える一方、工場を訪れる子どもたちに対しては先生役を務めるなど、組織の一員として社会とのかかわりを経験します。

研修をより有意義なものにするため、提携校とのカリキュラムのすり合わせや共同での学年末のテストも実施しています。提携校の先生方から「長年にわたり非常によい関係を築いてくることができた」と高い評価をいただただけでなく、地域からも貢献を認められ、数多くの表彰を受けています。

これらの取り組みを通し、マイオニックにかかわる人たちに、その企業風土や魅力を理解してもらうとともに、マイオニックという企業そのものを周知し、地域における存在感を高めています。

※computer aided design(コンピュータ支援設計)

Voice

学生時代の研修がきっかけで、マイオニックへの入社を決めました



マイオニック
プロセスエンジニア
ニコ・ベルホイザー

わたしは、2008年から2011年までの3年半の間、研修制度を利用して機械工学を学び、現在はマイオニックで働いています。小型の精密部品などのものづくりには以前から関心が高く、その分野で卓越しているマイオニックでの研修は、座学で学んだ理論を実践できる場として大変興味深いものでした。

単に機械工学の基礎を身に付けるだけではなく、チーム作業や大規模なプロジェクト演習を通じ、組織の中にはどのような工程が必要で、いかに製品がつくられるのかなど、一つずつ体験の中で知見を深めることができました。そこで得た貴重な経験は、マイオニックで働く今もわたしの大きな支えとなっています。

地域にとって魅力的なパートナーを目指す

新たなビジョンにおいてマイオニックがもう一つ重視するのが、地域の持続的な発展です。責任ある企業として地元の方々との良好な関係づくりを目指し、文化・環境・社会など多方面での活動を進めています。

その一貫として、地域住民の皆様と交流を深め、地域の発展に貢献するために、ロイトキルヒ市が行う文化的イベントを支援しています。市の中心部で毎月開催されるトークイベント「Talk im Bock」にはスポンサーとして協力し、著名人を招致した講演を実施しています。また、市内の夏祭りでは寄付金の拠出に加え、従業員がスポーツ大会などの催しに参加し、地元の方々との豊かな時間を共有しています。

さらに、地域の明るい未来づくりには、環境負荷の低減も重要であるとマイオニックは考えます。2012年に新設した工場では、国の定める消費エネルギー削減目標よりも30%高い目標を設定し、地下水を使った空調設備の設置

や、天然ガスの利用、高効率な照明への変更などにより、省エネルギーを徹底しています。そのほか、市内の環境情報センターにもブースを出展し、環境都市を目指すロイトキルヒ市の一企業として啓発活動に取り組んでいます。

子どもたちを対象にした社会的交流として、「TECHNOLino」プロジェクトにも力を注いでいます。このプロジェクトは、地元のロイトキルヒ・ヨハネス幼稚園の子どもたちに科学に親しむ機会を提供するものです。子どもたちを定期的にマイオニックに招待し、マイオニックの製品などを使った風車のおもちゃ製作など、やさしいものづくりを従業員と一緒に楽しんでもらうことで、科学への興味を引き出します。

マイオニックにとってCSRは事業の付随的な活動ではなく、「魅力的な企業になる」という経営上の重要課題と直結した取り組みとなっています。ビジョンを実現し、社会になくってはならない存在として多様なステークホルダーとともに歩むため、マイオニックは今後も将来を見据え、真摯にCSRを実践していきます。



地域の夏祭りの様子



「Talk im Bock」の様子



「TECHNOLino」プロジェクトの様子

Voice

幼稚園と企業をつなぐ有意義なプロジェクトです



ロイトキルヒ・ヨハネス幼稚園
エルク・リーハルト先生

「TECHNOLino」プロジェクトは、マイオニックや労働組合の方々の協力で2009年にスタートしました。幼少期の子どもたちの学びのスピードは極めて早く、この時期にレベルの高い学習機会を得て、科学への興味を深められるのは非常に意義のあることです。

子どもたちへのワークショップ開催に限らず、同じくマイオニックの支援の下、年に一度、保護者の方々へも参加を呼びかけた大規模な交流イベントを実施しています。こうした機会に、子どもたちはマイオニックの従業員との触れ合いを通して社会性も身に付けられます。保護者の皆様から高い評価を受けるとともに、私たち幼稚園教員も学ぶことの多い、非常に成功したプロジェクトであると考えています。